

二つ以上の障害が重複する場合の取扱い

- 1 二つ以上の障害が重複する場合の障害等級は、重複する障害の合計指数に応じて、次により認定する。

合計指数	18以上	17～11	10～7	6～4	3～2	1
認定等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級

- 2 合計指数の算定方法

- (1) 合計指数は次の等級別指数表により、各々の障害の該当する等級の指数を合計したもとする。

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級
指数	18	11	7	4	2	1	0.5

- (2) 合計指数算定の特例

同一の上肢又は下肢に重複して障害がある場合の当該一上肢又は一下肢に係る合計指数は、機能障害のある部位(機能障害が2か所以上あるときは上位の部位とする。)から上肢又は下肢を欠いた場合の障害等級に対応する指数の値を限度とする。

(例) 右上肢のすべての指を欠くもの 3級 等級別指数 7
 手関節の全廃 4級 〃 4
 合計指数 11

上記の場合、指数の合計は11となるが次の障害の指数が限度となるため合計指数は7となる。

右上肢を手関節から欠くもの 3級 等級別指数 7
 (例) 左上肢の肩関節の全廃 4級 等級別指数 4
 〃 肘関節 〃 4級 〃 4
 〃 手関節 〃 4級 〃 4
 合計指数 12

上記の場合、指数の合計は12となるが次の障害の指数が限度となるため合計指数は11となる。

左上肢の肩関節から欠くもの 2級 等級別指数 11

総括表

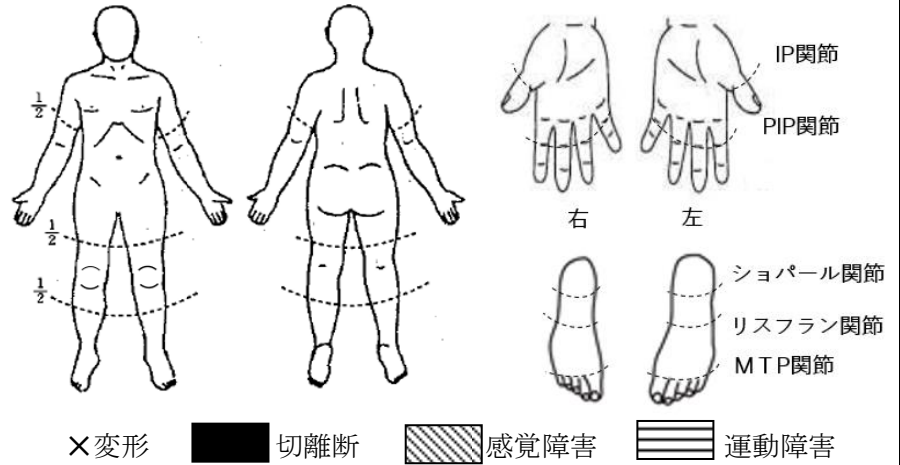
身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用)

氏 名	年 月 日生	男 ・ 女																													
住 所																															
① 障害名(部位を明記)																															
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他()																														
③ 疾病・外傷発生年月日	年 月 日・場所																														
④ 参考となる臨床経過・身体所見・検査所見(エックス線写真・CT・MRI等を含む)																															
障害固定日 年 月 日																															
⑤ 総合所見(脳血管疾患の場合は、部位及び大きさ・発生前後の身体状況の相違について記載)																															
〔将来再認定〕																															
人工関節置換術又は人工骨頭置換術日 (年 月 日)																															
<input type="checkbox"/> 軽快・改善による再認定を要する 再認定の時期 年 月 <input type="checkbox"/> 再認定は不要																															
⑥ その他参考となる合併症状(認知症等、障害に影響する傷病)																															
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 年 月 日 診療担当科名 科 15条指定医師氏名 (署名または記名押印) 病院又は診療所の名称 所 在 地 〒 電 話 番 号																															
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 障害の程度は、 _____ 級相当に (身体障害者福祉法別表に掲げる障害に) 該当する。																															
※早見表による根拠	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">障 害 部 位</th> <th style="width:10%;">等 級</th> <th style="width:50%;">項 目</th> <th style="width:25%;">指 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			障 害 部 位	等 級	項 目	指 数																					合 計			
障 害 部 位	等 級	項 目	指 数																												
合 計																															
注意 1 障害名欄には現在起こっている障害、例えば上肢機能障害(右手関節強直、右肩関節機能全廃等)を記入し、原因となった疾病・外傷名欄には、関節リウマチ等原因となった疾患名を記入してください。 2 四肢の欠損については、具体的欠損部位を明記すること。 3 治療又は手術後の症状が固定した状態で記入してください。 4 障害区分や等級決定のため、内容についてお問い合わせする場合があります。																															

肢体不自由の状況及び所見

- 1 神経学的所見その他の機能障害(形態異常)の所見(該当するものを○で囲み、下記空欄に追加所見記入)
- (1) 感覚障害(下記図示)：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚・評価不能
- (2) 運動障害(下記図示)：なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・筋強剛・不随意運動・振戦・運動失調
拘縮・腱反射(亢進・減弱・消失)・病的反射・その他()
- (3) 排尿・排便機能障害：なし・あり
- (4) 形態異常：なし・あり

【参考図示】



2 計測

右		左
	上肢長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力kg	

計測法

上肢長：肩峰→橈骨茎状突起

大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径(小児等の場合は別記)

下肢長：上前腸骨棘→(脛骨)内果

上腕周径、前腕周径及び下腿周径：最大周径

上腕切断	健側上腕長	cm
	患側断端長	cm
大腿切断	健側大腿長	cm
	患側断端長	cm
下腿切断	健側下腿長	cm
	患側断端長	cm

計測法

上腕切断：腋窩レベル～上腕断端までの距離

大腿切断：股レベル～大腿断端までの距離

下腿切断：内側膝関節裂隙～下腿断端までの距離

3 歩行能力(補助具等何も使用せず) 正常に可能・ _____ m歩行可能・不能

4 起立位(補助具等何も使用せず) 正常に可能・ _____分間以上困難・不能

5 動作・活動 自立-○ 半介助又は[]内使用-△ 全介助又は不能-X

利き手 (右 ・ 左)

※[]内の補助具等を使用時はそれを○で囲む。

	右	左	
新聞紙をつまむ			寝返りする
コップで水を飲む			いすに腰かける
箸で食事をする [バネ箸、矯正型自助箸]			洋式便器に座る
スプーンで食事をする [太柄、ホルダー付き]			排泄の後始末をする
字を書く			ズボンをはいて脱ぐ
ブラシで歯をみがく [太柄、ホルダー付き]			靴下をはく
両手で顔を洗いタオルでふく			立つ[手すり、壁、つえ、義肢、装具]
両手でタオルを絞る			家の中の移動 [壁、つえ、義肢、装具、歩行器、車椅子]
両手でひもを結ぶ			屋外を移動する(家の周辺程度) [つえ、義肢、装具、歩行器、車椅子]
両手でタオルを用いて背中を洗う			二階まで階段を上って下りる [手すり、つえ、義肢、装具]
両手でかぶりシャツを着て脱ぐ			公共交通機関の利用 [手すり、杖、義肢、装具、歩行器、車椅子]

注：身体障害者福祉法の等級は機能障害 (impairment) のレベルで認定されるので、[]の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になる。

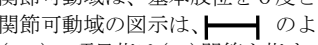
6 関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT) (この表は必要な部分を記入)

※ 筋力については、徒手筋力テストにより表()内に0~5の数値を記入すること。

【検査日 年 月 日】

筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()
筋力テスト() ↓	↓	筋力テスト() ↓	↓	筋力テスト() ↓
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180
()前屈		後屈() 頸	()左屈	右屈()
()前屈		後屈() 体幹	()左屈	右屈()
右			左	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180
()屈曲		伸展()	()伸展	屈曲()
()外転		内転() 肩	()内転	外転()
()外旋		内旋()	()内旋	外旋()
()屈曲		伸展() 肘	()伸展	屈曲()
()回外		回内() 前腕	()回内	回外()
()掌屈		背屈() 手	()背屈	掌屈()
()屈曲		伸展() 中手指節(MP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 中手指節(MP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 中手指節(MP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 中手指節(MP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 中手指節(MP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 近位指節(PIP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 近位指節(PIP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 近位指節(PIP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 近位指節(PIP)	()伸展	屈曲()
()屈曲		伸展() 近位指節(PIP)	()伸展	屈曲()
右			左	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180
()屈曲		伸展()	()伸展	屈曲()
()外転		内転() 股	()内転	外転()
()外旋		内旋()	()内旋	外旋()
()屈曲		伸展() 膝	()伸展	屈曲()
()底屈		背屈() 足	()背屈	底屈()

7 備考 筋力と動作・活動状況に乖離がある場合は、その理由を必ず記入すること。

- 注：1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
 3 関節可動域の図示は、 のように両端に太線をひき、その間を線で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(S)を引く。
 4 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
 5 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
 6 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(2) 伸展



屈曲(3)